

情勢報告

安芸市内で環境保全型農業推進にかかる地区会を開催！



このような栽培を心がけましょう！

11 月 11 日～14 日に赤野、安芸、穴内、伊尾木・下山地区において安芸市、JA、振興センター合同の地区会が開催され、日ごろナス部会等への参加がない個人出荷者を含めた 70 名が集まった。

振興センターからは、ナス促成栽培での病害対策や天敵温存植物、農薬の混用事例等について情報提供を行い、内容の濃い勉強会に真剣に耳を傾ける生産者の姿が多く見られた。

今後も JA 等と連携して地区会を開催し、最新の情報提供と併せて、系統出荷への誘導による産地のまとまり強化を図る。

集落営農組織を目指して ～室戸市^{しょうげ}庄毛地区有志～

視察先で皆と集落営農について熱く語る

11 月 22 日、地域を何とかしたいと熱い思いから庄毛地区有志 4 名と室戸市等関係機関 12 名が、地域でまとまって活動している中土佐町大野見^{いげの}神母野営農組合に視察研修を行った。

室戸市の集落営農組織設立はこれからであるが、研修時に聴いた、「まずは、飲み^{いげの}にケーションを大事にしながら話し合いをしていこう」と、12 月に視察メンバーと JA を含めて、集落営農組織設立検討会を予定している。

振興センターは検討会開催や組織設立に向けて支援する。

『環境制御』の先進地をみてきました！



熱心な質疑応答

12 月 4、5 日に振興センターが支援している新組織「土佐あき新施設園芸システム勉強会」の主催で 14 名（生産者、JA、振興センター等）が参加し、環境制御技術の知識向上を図るために千葉、栃木県の 4 圃場（トマト・パプリカ、千葉大植物工場等）の取り組みを視察調査した。振興センターの紹介が契機となった各視察先では「コンピュータによる環境制御」「効率的な CO₂ 施用」等の先進技術を学んだ。

今後、振興センターでは当勉強会や部会等で調査結果を報告し、安芸地域で導入できる環境制御技術の実践を呼び掛ける。

～JA 土佐あき花卉部球根部会現地検討会～



蕾が多すぎや

12 月 6 日、生産者 8 名が参加し、球根部会現地検討会を行った。

振興センターでは、灌水パイプのつまりによる生育のばらつきの改善や保温対策他、栽培技術的な改善点を指導した。また、ヒートポンプを導入した農家から「3 日に 1 回の給油が、1 週間に 1 回になった」と導入の効果について話が出るなど省エネに対する関心も見られた。

今後、振興センターでは花きにおけるヒートポンプの効果をまとめて部会の勉強会等で報告する。

省エネ対策！他産地の取り組みを知ろう～JA 土佐あきミョウガ部会～



須崎ではどんな取り組みをしゅうがやろう？

12月9日、JA 土佐あき園芸研究会ミョウガ部会は現地検討会・勉強会を行い、生産者14名が参加した。

振興センターは現地でセンチュウ対策や湿度管理等の栽培指導を行った。ミョウガ専門普及指導員による「JA 土佐くろしおにおける省エネ対策」等について講演の後、生産者は温度管理や収量などについて熱心に意見交換を行った。

今後、振興センターでは、生産性の向上や効率的な省エネ技術導入のために他産地とも情報交換できる場を設定する。

「琴ヶ浜かっぱ市（芸西村）」の生産者向け農薬適正使用講習会



熱心に聞く琴ヶ浜かっぱ市の生産者

12月11日、かっぱ市に青果物を出荷する生産者を対象に農薬の適正使用講習会を村民会館で開催し、12名が参加した。

振興センターからは、農薬の適正使用やGAP導入の視点から、農薬の使用上の注意、生産履歴記帳の必要性、農薬トラブル事例、異物混入事例等の他、直販所の野菜に消費者が期待することは？等について説明を行った。参加者からは、「綺麗に作るには農薬は必要、使い方には気を付ける」「分からなかったらJAに聞くようにする」等の意見が出た。

今後も同様な指導の他、加工者向けに「表示」の講習会を開催予定である。

～ナス産地を担う若者達、共に研修しています～



研修農家の栽培管理について熱心に意見交換

12月12日、田野町新規就農研修支援事業で施設ナス栽培に取り組む研修生と受入農家が研修会を行い、4組8名が参加した。

振興センターは、前半、各農家のハウスを巡回して管理技術などの栽培指導や情報交換を、後半では新規就農時に利用できる助成や資金制度を説明し、意見交換を行った。参加者から、「就農時の施設確保の支援を」「中芸地区での支援体制が必要」などの提案があった。

今後も、振興センターでは就農準備のため、地域担い手育成支援協議会と連携し、新規就農に向けた支援を行う。

大野倶楽部女性部（田野町）が体験レストラン交流会を開催



女性部員が講師となり、押し抜き寿司づくりを体験中！

12月14日、大野倶楽部女性部は、「おいしい体験交流会」を大野倶楽部集会所で開催し、町外消費者10名が参加した。大根の収穫体験や押し抜き寿司・大根の生漬けづくりを行い、親子連れ等と交流した。

振興センターは提供メニューの検討や衛生管理等について助言・指導した。

部員は、素朴なメニューで不安だったが、参加者の「おいしい」「次回はいつするの？」の声を聞き、自分達の料理に自信を持った。

今後、振興センターは告知方法、役割分担等の指導を行い、農家レストランの本格実施に向けて支援する。

ゆずスイーツコンテスト開催！～中高生のアイデアレシピずらり～



最優秀賞の歓喜にわく受賞者

12月14日、JA土佐あきゆず部の第2回料理コンテストが開催され45名が参加した。今回はゆずを使ったスイーツをテーマとし、県東部の公立中等高等学校等から26品の応募があった。当日は17品が出展され、地元洋菓子店のパティシエを含めた審査の結果、高知農業高校の「ムース in ゆず」が最優秀賞を獲得した。

振興センターは、各学校との連絡調整や当日の出前授業の講師、審査等を支援した。

今後、優秀なレシピを消費宣伝活動等に活用することでゆずの消費拡大に繋げる。

室戸市農林祭農産物品評会が開催



力作を前に審査にも熱気が

12月14日にJA営農指導員と振興センターの計4名の審査員による室戸市農林祭農産物品評会の審査が行われた。今年は、夏の高温少雨や秋の台風の影響を乗り切ったキュウリ、ピーマン等23品目約150点が審査の対象となった。最高位の知事賞は、果形の揃いや色つやが良くボリューム感のある土佐鷹ナス（O氏、吉良川町）であった。

品評会は高品質を目指す農家が切磋琢磨する場であり、今後も振興センターでは高品質生産に取り組む農家を支援する。

～奈半利町^{よね}米が岡地区^{おか}水稻栽培反省会～



俺の米が一番じゃけんどのう

12月17日、地元ではお米の美味しいことで定評のある、米が岡地区で水稻栽培の反省会を行った。

振興センターが講師となり、今年の気象概況と作柄の関係を説明した。次に食味値を示して自分の数値を他農家と比較し、土壌分析結果を示して食味との関連を説明し、美味しいお米の作り方を講習した。

今後、振興センターではさらに高品質なお米の生産へ意欲を増してもらうため町と連携して、ご飯の食べ比べを行う。

安全・安心な直販所づくり～東洋町「海の駅」出品者講習会～



制度の複雑さに溜め息も漏れた

来春1月に再オープンする東洋町の「海の駅」が12月19日に直販所の出品者対象に講習会を開催した。講習会では地域農業推進課が表示、安芸福祉保健所が食中毒、そして振興センターが農薬について説明した。

限られた時間であったが「この加工品も営業許可が必要？」「無農薬の場合の履歴は？」と日ごろの疑問にも応える良い機会となった。

振興センターでは安全・安心な直販所づくりのため、今後も出品者や直販所へ表示方法、衛生管理、農薬取扱い等の指導を継続する。